

研究成果

(1) 学会誌など

1) 日本言語文化学会(編)『第二言語習得・教育の研究最前線 2002 年版』(『言語文化と日本語教育』2002 年 5 月増刊特集号) 収録のもの

長友和彦(2002)「JSL 習得研究の発展を願って：私的研究レビュー」2-8.

佐々木嘉則(2002)「日本語習得研究の日米お家事情」9-18.

白井恭弘(2002)【解説】「第二言語習得における文法習得研究とその教育的示唆」20-27.

峯布由紀(2002)「Processability theory に基づいた言語習得研究」28-44.

齋藤(大関) 浩美(2002)「連体修飾節の習得に関する研究の動向」45-69.

菅谷奈津恵(2002)「第二言語としての日本語のアスペクト習得研究概観：「動作の持続」と「結果の状態」のテイルを中心に」70-86.

黒滝真理子(2002)「日英対照・認知的モダリティの研究動向」87-101.

辛昭静(2002)「ら抜き言葉の研究概観」102-119.

杉浦まそみ子(2002)「日本語の引用表現研究の概観－習得研究にむけて」120-135.

小池圭美(2002)「Focus on Formと言語形式－海外における研究の概観と日本語習得研究への提言－」136-149.

森山新(2002)【解説】「語彙習得研究と認知言語学」152-154.

谷内美智子(2002)「第二言語としての語彙習得研究の概観－学習形態・方略の観点から－」155-169.

松田文子(2002)「複合動詞研究の概観とその展望——日本語教育の視点からの考察——」170-184.

福岡昌子(2002)【解説】「日本語音声の中間言語研究の基本的課題：長母音と短母音の習得研究から」186-188.

小熊利江(2002)「日本語の長音と短音に関する中間言語研究の概観」189-200.

佐々木泰子(2002)【解説】「日本語教育の、日本語教育による、日本語教育のための会話研究」202-204.

金志宣(2002)「Turn-taking 研究の動向 — "turn"と"turn-taking"をめぐる議論を中心に —」205-221.

陳姿菁(2002)「日本語におけるあいづち研究の概観及びその展望」222-235.

林美善(2002)「電話会話における終結部研究の動向 — 日米・日韓を比較した研究を中心に —」236-244.

李志暎(2002)「ビジネス日本語教育を考える」245-260.

西條美紀(2002)【解説】「文法・談話の理解をめぐる問題」262-265.

李貞旻 (2002)「文章論研究の概観」266-278.

尹松 (2002)「第二言語・外国語教育における聴解指導法研究の動向」279-288.

池田玲子 (2002)「第二言語教育でのピア・レスポンス研究 -ESL から日本語教育に向けて-」289-310.

加賀美常美代(2002)【解説】「言語学習における動機づけ」312-314.

守谷智美 (2002)「第二言語教育における動機づけの研究動向 -第二言語としての日本語の動機づけ研究を焦点として-」315-329.

清田淳子(2002)【解説】「共生社会におけることばの教育はどうあるべきか」332-336.

鈴木京子 (2002)「多文化教育としての LOTE 教育の構築に向けて-オーストラリアの日本語教育における近年の動向に関する一考察-」337-353.

原みずほ (2002)「多言語併用教室の言語使用に関する研究 -日本における加算的バイリンガリズムの実現を目指して-」354-367.

村松賢一 (2002)【依頼論文】「国語科におけるコミュニケーション能力の育成 -音声言語教育の現状と課題-」368-380.

2) 日本言語文化学会(編)『第二言語習得・教育の研究最前線 2003 年版』(『言語文化と日本語教育』2003 年 11 月増刊特集号)収録のもの

白井恭弘 (2003) 【講演録】「第二言語習得研究とは何か？」2-16.

大関浩美・遠山千佳・森塚千絵・谷内美智子・佐々木嘉則 (2003)「白井恭弘講演録解説」17-30.

大関浩美(2003)「なにが関係節習得の難易を決めるのか：研究の動向および日本語習得研究 への示唆-」32-50.

森塚千絵(2003)「日本語の指示詞コソアとその習得研究の概観」51-76.

谷内美智子(2003)「付随的語彙学習に関する研究の概観」78-95.

陳毓敏(2003)「中国語を母語とする日本語学習者における漢語習得研究の概観：意味と用法 を中心に」96-113.

小池圭美(2003)「音声に関する評価研究の概観と今後の展望」116-127.

石崎晶子(2003)「ポーズに関する研究の概観：学習者の発話におけるポーズ研究の基盤構築 に向けて」128-146.

柳川子(2003)「日本語学習者を対象とした相づち研究の概観」148-161.

徳永あかね(2003)「日本語のフォリナー・トーク研究：その来歴と課題」162-175.

河先俊子(2003)「韓国における日本語教育史研究の概観」178-197.

大島弥生(2003)「日本語アカデミック・ライティング教育の可能性：日本語非母語・母

語話者双方に資するものを目指して」198-224.

3) 日本言語文化学会(編)『第二言語習得・教育の研究最前線 2004 年版』(『言語文化と日本語教育』2004 年 11 月増刊特集号) 収録のもの

森美子(2004)【講演録】「語意推測方略の個人差」12-37.

大北葉子(2004)「森講演録に対するコメント」38-40.

黒沢学(2004)【講演録】「名詞連結からみる第 2 言語語彙の表象と学習」41-67.

大北葉子(2004)「黒沢講演録に対するコメント」68.

佐々木嘉則(2004)【解説】「定量的研究の計画・成果を、リサーチクエスチョンを軸として分析する一技法：森美子・黒沢学両氏の実験研究を事例として」69-87.

吉澤真由美(2004)「L2 読解における incidental vocabulary learning：教育的支援に関する研究の概観と今後の課題」88-108.

菅谷奈津恵(2004)「第二言語の生産的言語能力獲得におけるかたまりの役割：日本語の動詞活用を中心に」110-123.

向山陽子(2004)「文法指導の効果に関する実験研究概観：明示性の観点から」124-146.

高橋織恵(2004)「連体修飾構造の習得過程に関する研究概観：「の」の過剰使用と脱落を中心に」147-167.

尹喜貞(2004)「第二言語としての日本語の授受動詞習得研究概観：習得順序の結果と研究方法との対応に焦点をあてて」168-181.

横山紀子(2004)「第 2 言語における聴解ストラテジー研究：概観と今後の展望」184-201.

近藤彩(2004)「日本語教育のためのビジネス・コミュニケーション研究」202-222.

朱桂榮(2004)「日本語以外の言語を母語とする言語少数派の子どもへの学習支援における二言語併用の役割：二言語併用研究の示唆するもの」223-249.

4) その他の雑誌に掲載されたもの

菅谷奈津恵(2004)「プロトタイプ理論と第二言語としての日本語の習得研究」『第二言語としての日本語の習得研究』7, 121-140.

(2) 口頭発表

佐々木嘉則(2004)「JSLA 研究者養成の課題：レビュー論文編纂プロジェクトを通じて見えてきたもの」第 50 回第二言語習得研究会(関東)招待講演 6 月 12 日

(3) 出版物

日本言語文化学会(編)『第二言語習得・教育の研究最前線 2002 年版』(『言語文化と日本語教育』増刊特集号) 日本言語文化学会 2002 年 5 月 24 日

日本言語文化学会(編)『第二言語習得・教育の研究最前線 2003 年版』(『言語文化と日本語教育』増刊特集号) 日本言語文化学会 2003 年 11 月 30 日

日本言語文化学会(編)『第二言語習得・教育の研究最前線 2004 年版』(『言語文化と日本語教育』増刊特集号) 日本言語文化学会 2004 年 11 月 30 日

白井恭弘(2004)『外国語学習に成功する人、しない人：第二言語習得論への招待』岩波書店(白井(2003)に加筆・修正し、書籍として出版したもの。)